

第5節 調査研究の推進

①環境技術の振興

■試験研究体制の整備

公害監視センターでは、検査・分析の精度の維持向上を図るため、機器の導入、更新を行うとともに、新たな化学物質のモニタリング体制を充実するため、ダイオキシン類等の測定に必要な前処理実験室を整備した。

農林技術センターでは、農林・生物系の実用技術を核とした試験研究機能の総合的展開及び普及指導機能との連携強化を図るための施設改修整備基本計画を策定した。

■研究開発の推進

公害監視センターでは、光化学オキシダントによる植物影響や合成酸性雨による炭酸カルシウムの溶出実験等を行うとともに、大阪湾の富栄養化や化学物質、農薬及び鉄道騒音等に関する調査研究を行った。

産業技術総合研究所では、プラスチックや繊維の産業廃棄物の再利用技術の開発とともに、炉やバーナーの燃焼効率を高めNOx排出量を低減する低NOx化技術の研究を進め、また、超微細構造のセラミックスを開発し、大気や水の浄化装置へ応用する技術の開発研究を行う等、環境汚染の防止、廃棄物の減少、浄化技術といった分野の研究を推進した。

農林技術センター、水産試験場や淡水魚試験場では、農林水産業に関する総合的試験研究を行い、生産性向上及び経営の近代化促進に努めるとともに、自然環境との関わりについての府民の関心の高まりを受け、環境保全型農業生産技術や、自然環境の保全と緑創出技術、水域環境の向上を図るための水産資源生存環境及び生態等に関する調査研究等を実施した。

府立大学では、総合的・学際的視野から有害排出物の低減を目指した燃焼技術、ゴルフ場農薬の微生物分解、光合成生物による大気炭酸ガスの低減化など幅広く環境に関する研究を行った。

■成果の普及

産業技術総合研究所では、脱フロンに関する知識と経験を有する者を技術アドバイザーとして登録し、府内の中小企業の要請に応じて派遣し、技術指導を行い、技術向上を図った。

②調査研究の推進（中長期的な研究課題例）

■環境の保全と創造に関する実証研究

国や関係機関、環境関連産業と実証研究に向け、堺第7-3区土質改良方策等基礎調査を通じて技術的な調査研究を行うとともに、企業との共同研究などの推進方法について検討した。